

『今の苦難、やがての栄光』(ローマ人への手紙 8 章 18-30 節)2020.6.28.
<はじめに> 今がどんな時だと思えますか。上り坂、絶頂、下り坂、どん底…いろんな局面があるでしょう。今の時と苦難を結び付ける人は珍しくありません(18)。その中で人は悩み苦しみ、もがきながら日々どこに向かって歩んでいるのでしょうか。聖書は、やがて来る栄光がある、と言います。

I 被造物のうめき(19-22)

①被造物は何のために

神は万物を創造されて、人にそれらを任せられました(創世記 1:28、2:15)。人は自然界から多くの恩恵を受け取るとともに、時に牙をむく自然の驚異に悩まされて来ました。その度に疑問が沸き起こります。「人を悩み苦しませるために、神は万物を創造されたのか」と。

②被造物の現状(20-21)

被造物は自分の意志ではなく、虚無に服し(20)、滅びの束縛(21)に囚われていると、聖書は言います。それは人間の墮罪によって、神ののろいに服させられたからです(創世記 3:17-19)。その後の人間の身勝手な仕業が、被造物の苦しみをより深めています。

③ともうめき苦しむ(19,22)

被造物は神に背いた人間の道連れです。今の被造物は、本来神が創造された姿ではありません。今に至るまで人の罪ののろいを共に味わい、うめいています。だから、被造物は人が神の子どもとして回復されて現れるのを切望し、産みの苦しみをしています。

II 私たちのうめき(23-25)

①御霊の初穂(23)

キリストのものとなった人には御霊が与えられています(9)が、初穂に過ぎません。救いは始まったばかりで、からだが贖われ、復活の身体が与えられる救いの完成へと向かうために召されたのです。御霊は救いの実現の手付けとして与えられています。

②子にしていたくこと(23)

御子キリストを信じる者には、神の子どもとする特権(ヨハネ 1:12)と御霊(15)が与えられ、キリストとともに栄光を受ける相続人とされました。やがて相続人は神の御国を受け継ぎ、キリストとともに治めます。その資質と今の自分の実質の狭間で、人はうめいています。

③この望みとともに(24-25)

ある人は、キリストに救われたことで新たな悩みと重荷が課されたと感じるでしょうか。神の子としてくださるのは神の約束で、栄光の自由にとります(21)。まだ見ていないこの約束の実現に向けて、日々御霊に従い、うめき悩み、忍耐して待ち望んでいます。

III 御霊のうめき(26-30)

①弱い私たち(26)

救われたのに苦しみ悩むとは、矛盾に見えるでしょうか。苦難は信仰の未熟・不足・落伍のしるしではなく、神からの警告や訓練です。罪から離れて、神に従う歩みに切り替える日々の戦いがあります。私たちはその過程で、何をどう祈ればよいのでしょうか。

②御霊のとりなし(26-27)

私たちには御霊の助けがあります。祈りもままならない私たちのために、御霊は神のみこころに私たちが沿うようにとりなしてください、神につなげてくださいます。人の心を知り探られる神は、ことばにならない私たちの思いも御霊のとりなしを受け留めてくださいます。

③神のご計画(28-30)

神のご計画は、人を御子キリストの像・姿に整えることです。そのために人を召し、義と認め(罪を赦し)、栄光を与えられます。神は、この召しに応えた人のためにすべてのことを動員して、その人を神の子どもに相応しく育て整えようと、今も働いてくださっています。

<おわりに> 苦難の中にも神の深いご計画があることを私たちは知っていますか。知っているなら、神を愛し、神の導きと招きに、素直に大胆に応じましょう。私たちは神の子どもとして召され、わが身にもやがて現されるその栄光を望み見て、今日も主とともに歩みましょう。(H.M.)